

『鐘の鳴る街会津』事業の推進

ゴーン、ゴーンと鳴る鐘の音に耳をすませたことはありますか？

郷愁と荘厳さをたたえる独特の音色は耳馴染むなつかしいものです。昭和40～50年代に少年期を過ごした商工会議所青年部のメンバーにとっては夕暮れの記憶に欠かせないものでした。当時は神社やお寺の境内は恰好の遊び場であり、外で遊ぶことが基本だった子どもたちは、『鐘鳴ったがら、まんま食いに帰んべ。』と、帰宅の目安にしたものでした。今の子ども達は、習い事や塾等で大変忙しく、遊びといえば室内でゲームやテレビを見て過ごす時間が多い様です。鐘の音を合図に帰宅する子どもなど、ほとんどいないのではないのでしょうか？

そんな子ども達にもぜひ、鐘撞きをさせてあげたいと思います。地域の中のコミュニティーの一部として鐘撞きを経験する事により、地元に対する自覚と誇りが生まれ、将来都会へと進学や就職等で出て行く子ども達も、鐘を撞いたことがきっかけでふるさとの素晴らしさに気付くことがあるかもしれません。

観光政策委員会（前ムービングエモーション委員会）では、2005年から『鐘の鳴る街会津』という事業を企画しました。鐘楼所有の寺院にお願いし、夕刻の同一時刻に一斉に鐘をつくというものです。

近年は「仏都会津」を観光のテーマに、全国より誘客をしていることもあり、この地に鳴り響く鐘の音は、訪れた観光客ばかりではなく、地域で暮らすわたしたちの心をも癒してくれています。

地域住民の付き合い方も希薄になりがちな昨今、鐘撞きをする事により、寺社を通してコミュニティーが形成され、地域の結び付きが強まれば幸いです。

会津若松商工会議所青年部
観光政策委員会委員長 長尾 剛吏